

# 第六回萬國林業試驗場組合會議ノ概況

白澤保美

本會ハ千九百十六年九月ウキルテンベルグニ於テ開會シタル第五回會議ノ議決ニ基キ千九百十年九月十日ヨリ同月十九日マテ比耳義國ニ於テ開催シタルモノニシテ千八百九十六年奧國マリアブルンニ於テ開會セル第一回會議ノ當時ヨリモ大ニ其加盟國ナ増加シ今回之ニ參同シタル諸國并委員ハ次ノ如シ

名譽會長 同國內閣總理大臣兼文部大臣

同 農工部大臣

名譽副會長 水林局長

同 萬國博覽會委員長

同 上 ブリュッセル市長

同 上 上院議員兼高等森林會々長

實行委員長 森林監督官長

副 長 森林監督官長

書記長 水林局技師

會計長 同

又本組合ヘ加盟ノ諸國ハ

エルサスローレイヌ

巴 威 里

北 米 合 衆 國

露 西 亞

サ ク セ ン

チ ュー リ ン ゲ ン

(括弧内ニアル加奈太及外六國ハ第五回會議ノ後本組合ニ加入シタルモノナリ)

以上諸國ヨリハ一二國ヲ除クノ外各壹名乃至貳名ノ代議委員ヲ出席セシメタリ其人名ハ

奧 太 利

技 師 森林監督官林業試驗場技師

奧 太 利

ブラウンスウィグ

(佛) 蘭 西

(葡) 萄 牙

(セ) ル ビ ャ

ウキルテンベルグ

比 耳 義

瑞 露 西

日 本

洪 牙 利

(加) 奈 太

ヘ ツ セ ン

普 露 西

瑞 露 西

比 耳 義

日 本

瑞 露 西

日 本

ス コ レ ー ル  
エ レ プ ツ ト  
ホ ー フ マ ン  
ジ ヤ ン ス ン  
マ ツ ク ス  
ビ ザ ー ル  
ク ラ ー エ ー  
プ ロ ン ド ー  
ジ ュ リ エ ー  
ク ラ ー エ ー

ベ ー メ レ ー  
ツ エ ー デ ル バ ウ エ ル

比	ウ	チ	瑞	瑞	セ	露	ル	普	洪	和	ヘ	北	テ	加	ブ	バ
耳	キ	ユ	ル	典	ル	西	マ	露	牙	蘭	ツ	米	シ	奈	ガ	威
義	ル	リ	西	ヤ	ニ	亞	ニ	西	利	蘭	セ	合	マ	太	リ	里
	ゲ	ン			ア						ン	衆	ク			

森林監督官長	同	農商務省山林課長	森林監督官	林業試験場長兼教授	森林監督官	「ミシガン」大學林學部長	大學教授	森林監督官	林業試験場長	同技師	教授	林務官	森林監督官	高等森林學校教授	高等森林學校教授	同	山林局長	教授	林業試験場長	同技師	教授	教授	森林監督官長
--------	---	----------	-------	-----------	-------	--------------	------	-------	--------	-----	----	-----	-------	----------	----------	---	------	----	--------	-----	----	----	--------

ク	ビ	マ	フ	エ	ハ	ベ	フ	モ	ア	シ	ロ	リ	パ	ウ	フ	ハ	ミ	ベ	シ	マ	シ
ラ	ユ	ー	ル	ン	ツ	ル	ア	ロ	レ	ユ	ー	ダ	ン	メ	イ	ン	ラ	ク	ユ	イ	フ
ー	ー	テ	ー	ー	ー	ク	ー	ソ	ン	ツ	パ	シ	セ	ナ	リ	ペ	ン	ド	ア	エ	ル
エ	ラ	ス	ー	ー	ン	ク	テ	ツ	ン	パ	ト	ユ	ル	ウ	ト	ン	ン	ナ	ー	ー	ト

日 本 水林局技師 林務技師林學博士 白 澤 保 美

此他英國及佛蘭西國ヨリハ代議委員ヲ出席セシメサリシモ英國ヨリハ「テクスホルド」大學教授シユリツヒ及ソンマービルノ兩氏  
及外二名客員トシテ出席シ又比耳義國ヨリハ會議ノ傍聽視察旅行等ニハ多數ノ林業關係者植物園長ボンマー、内務大臣フアブ  
男ビルンフアリス男上院議員ビザール伯其他多數著名ノ士來會セリ  
茲ニ主權國即チ比耳義國林業ノ概況ヲ知ルコトハ參考上便宜アルヲ認メ左ニ之レヲ記載ス

### 比耳義國森林ノ概況

千九百九年ノ統計ニヨルトキハ比耳義國ノ全面積ハ二百九十四萬五千五百〇三「ヘクタール」アリ就中森林面積ハ五十三萬四千  
九百十六「ヘクタール」ニシテ即全面積ノ一八・一六%ニ當リ人口一人ニ對スル森林面積ハ七「アール」一八ナリ今此森林面積ヲ所有  
別ニ區分スレハ次ノ如シ

國有林 三〇、七五四「ヘクタール」  
公有林 一六六、四四一「ク」  
教會及學校林 六、四〇〇「ク」  
私有林 三三一、三二〇「ク」

又之レヲ作業別ニ區分セハ次ノ如シ

合 計	喬 木		針 葉 樹		中 林		矮 林		播種又ハ新植地	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
政府ノ監督ニ屬スル森林	二七、四七四	7%	四六、六二七	32%	七九、一二七	38%	四五、六四二	21%	四七、二六	2%
私 有 林	一一、九四三		一二〇、五九七		一二三、二七七		六六、五六一		八、九四二	
合 計	三九、四一七		一六七、二二四		二〇二、四〇四		一一二、二〇三		一三六、六八	

注意 ×ハ國有林公有林及教會又ハ學校林等ヲ合計シタルモノトス

政府ノ監督ニ屬スル森林ノ收支ハ千九百〇五年ニ於テハ

粗收入 六百十九萬二千百法  
支出 百三十七萬二千三百六十五法

又同年ニ於ケル民林ノ粗收入ハ

千百三十四萬二千七百七十七法ナリ

同國ハ土地狹ク人口比較的稠密木材ノ需要甚タ多クシテ其價又高クブリュッセル市郊外ニ於テ樺ノ良材ハ林内渡シ一尺ノ六、七圓山毛櫟ノ用材ト雖モ八圓餘ナリ是故ニ内國產ノ木材ノミテ以テ需要ヲ充タスコト能ハス毎年多量ノ木材ヲ輸入シ千九百〇八年ニ於テハ其總額一億八千八百三十二萬二千法ニ上リ人口一人ニ對シテ二十六法ニ相當セリ

千九百十年九月十日各國ノ委員ハ豫テノ通告ニヨリテ獨逸國ルキセンブルグト此國ノ境ニ近キスパールト稱スル溫泉場ニ來會シテ是所ニ初日ノ面接會アリ并會議案ノ配布ヲ受ケタリ

九月十一日午前十時同市ノ公會堂ニ於テ會議ヲ開キ會長クラエー氏ヨリ第五回總會以後ノ事務ノ報告アリテ次ニ洪牙利國委員ワグシユ氏ヨリニゼあかしや林ニ就テ瑞西國委員エングラー氏ヨリ前總會ノ宿題タル林木種子ノ產地並遺傳性ニ關スル試驗成績ニ就テ報告アリ是等ニ關シテハ各國委員ヨリ種々ノ批評アリ

一、偽あかしや林ニ關スル報告ノ概要

ワグシユ氏ハ洪牙利ニ於ケル此樹種ノ造林生長並林木及木材ノ性質ヲ詳論シ殊ニ同樹種ノ長所ハ(一)生長ノ迅速(二)秀逸ナル材(三)土壤ノ好惡ヲ選ハサルコト(四)萌芽ノ熾盛(五)根組織ノ擴張等ニアリトシ左ノ結論ヲ爲セリ

現今此樹種ハ洪牙利ニ於テ殆ント全國ヲ通シテ中央山脈ノ或地方マテ造林セラレ又中央部ノ砂地方ニ於テハ獨リ此樹種ノミヲ以テ成リタル數千町歩ノ森林アリテ同國ノ林業並國家經濟上甚タ重要ノモノト成レリ即チ此樹ハ樹木ニ缺乏セル地方ニ於テ諸般ノ應用ニ適スル木材ヲ供給スルノミナラス亦其森林ハ飛砂ヲ防キ或ハ荒廢セル山岳ノ砂防植栽ニ用キテ最モ佳ナリ此他古昔ヨリ荒蕪地ト稱セラレ一樹一木ヲモ生セサリシ所ニ於テハ此樹ノ植栽ニ依テ夏日ノ炎天ニ際シテ人畜ノ爲メニ庇陰ヲ獲或ハ養蜂者ノ爲ニハ蜂密ノ供給ヲ受クル等其直接間接ノ利益尠カラズ云々

一、種子ノ產地及遺傳性ニ關スル試驗ニ就テエングラー氏報告ノ概要

本試驗ハ千九百三年ヨリ着手シタルモノニシテ其試驗ニ供シタル樹種ハ松ニシテ其種子ハ千九百六年及千九百七年ニ採集シタルモノナリ而シテ該種子ハ瑞西國ニ於テハ北緯四十七度附近ニ於テ海面高三百十八米乃至千九百米ノ間ニ於テ採集シ此他獨逸佛蘭西比耳義蘇格蘭瑞典及露西亞等ノ諸國ヨリ採集シタルモノアリテ是等ノ數ハ合計五十六種ニ上レリ

右ノ種子ヲチユーリツヒノ近郊アドリスベルクノ試驗苗圃及他ノ海面上四百五十、六百五十及千二百米ノ高サニ於ケル三ヶ所ノ苗圃ニ播種シ二年間苗圃ニ於テ育成シタル後海面高三百七十米ヨリ千九百三十米ノ間ニ於ケル八ヶ所ノ林地ニ植栽セリ以上實行中今日マテ得タル成績ヲ擧クレハ

球果及種子ニ就テハ

(1)「アポフイセン」ノ形狀ハ同一ノ立地ニ於テモ各樹毎ニ同一ナラス然レトモ同一樹ニ生シタル球果ノ形狀ハ概相等シ

(2) 中部瑞典ヨリ北方ニ向ヒ又アルペンノ低所ヨリ高處ニ進ムニ從ヒ「アボワイゼン」ハ漸次其厚サチ増加シ又北地及アルペンノ高地ニ産シタル球果ハ中歐ノ低地ニ産シタルモノヨリモ比較的輕クシテ且容易ニ開張セス

(3) 産地ノ位置并緯度ノ高低ハ球果ノ形狀ニハ影響ナキモ北瑞典及上部アルペン産ノ球果ノ色彩ハ著シク明黃色ヲ帶ヘリ

(4) 中歐ノ低地ニ産シタル種子ノ重量ハ北瑞典及上部アルペンニ産シタルモノ、夫レヨリハ著シク重ク又其重量ハ産地位置ノ低キヨリ高キニ至ルニ從ヒ漸次減少シ北緯六十度又ハアルペンノ千五百米以上ニ産シタルモノハ其千粒ノ重量六「グラム」ニ過キス

(5) 北緯六十二度又ハアルペンノ千六百米以上ノ所ニ産シタル種子ハ低位置ノ地方ニ産シタルモノニ比シテ其發芽力并發芽率弱小ニシテ且發芽力ヲ失フコト比較的速カナリ

(6) 種子并翅ノ色彩ハ每一様ナラサルモ概シテ北方并高地産ノモノハ比較的淡明ナリトス  
一年乃至五年生苗木ニ就テハ

(1) 前記四ヶ所ノ試植地ニ於テ中歐産松苗ノ高サノ生長ハ高位置及北方産ノモノニ比シテ大ク且其生長力旺盛ナリ即チ苗木ノ生長力ハ其母樹ノ産地海面上ノ位置若ハ緯度ノ高サニ從ヒ漸次減却ス此顯象ハ瑞典産ノモノニ就テ其著シキヲ見ル

(2) 低位置ノ試植地ニ於テハ各地産ノ苗木ハ春季殆ント一樣ニ生長ヲ始ムト雖モ秋季ニ至ルトキハ北瑞典及高アルペン産ノモノハ凡ソ十日程早ク其生育ヲ休止シ又高位置ノ試植地ニ於テハ北瑞典及上部アルペン産ノモノハ他ノモノニ比シテ早ク發芽シ又著シク早ク生育ヲ休止ス

(3) 高位置ノ試植地ニ於テハ中歐産ノモノハ雪害霜害及孤立ノ害ヲ受ケ易ク之ニ反シテ上部アルペン及北瑞典産ノモノハ完全ナル成育ヲ遂ク又三、四十年前ニ或高位置ニ植栽セル中歐産ノ松樹ハ現今其地方在來ノモノニ比シテ著シク低矮ナルヲ見之レニ反シテ低地ニ試植セル北瑞典及上部アルペン産ノモノハ叢狀ヲ爲シ且其幹ハ不正ナル形狀ヲ成セリ

(4) 上部アルペン北瑞典及佛國南部産ノ幼樹ノ針葉ハ比較的矮小ニシテ回振シ且其表皮ハ厚ク發育シ又中部歐洲平原地方及南部佛蘭西産ノ樹木ハ北及東歐并上部アルペン地方産ノモノニ比シテ樹脂含有量著シク多キヲ見ル

(5) 冬季ニ於テ松樹ノ針葉ハ概シテ帶黃若ハ帶褐色トナルモノナリト雖モ就中北瑞典及上部アルペン産ノモノ著シク南佛産ノモノ少ナシ又瑞典産ノモノハミニテ比較スルトキハ其産地ノ緯度カ北方ニ進ムニ從ヒ其變色ノ度著大ナリ

(6) 松ノ立枯病ニ罹ルモノハ平地ニ育成シタル山地産ノ松樹ニ多ク之レニ反シテ瑞典及佛國産ノモノ少シ殊ニ佛國産ノモノハ針葉密生シ且深綠色ナリ

次ニシユワツパツハ氏ハエーベルフアルデノ林業試驗地ニ於テ試驗ノ結果ヲ報告シテ曰ク佛國又ハ南部洪牙利國ヨリ輸入シタル種子ヨリ養成シタル苗木ハ殊ニ此立枯病ニ罹リ易シト次ニウインメナウエル氏ハ自己ノ出版スル森林及狩獵雜誌ノ附錄改良

按テ説明セリト雖モ之レヲ批評スル時間ノ餘裕ナカリシ

午後一時ヨリ會員一同馬車ニテ附近ノ森林ヲ巡視セリ是ハ主トシテ同市ノ市有林ニシテ其作業ノ方法及道路ノ築造等ハ此地ニ滞在ノ旅客ヲシテ其森林美ヲ賞觀セシメ遊歩散策ノ愉快ヲ享有セシメ得ル如クナレリ午後五時ヨリスパー市長ヨリ立食ノ餐應アリ且市ノ經營セル浴場ヲ參觀セシメラレタリシカ其設備ハ實ニ能ク整頓シタルモノナリ

九月十二日午前七時半出發會員一同自動車ニ乘シヘテローゲン林ニ至リ同林内ノ諸所ニ設定セル試驗地ヲ巡視ス此林ハ國有ニ屬シ普露西ノ國境ニ横ハリ其面積六、八一七町アリ

### (一) 高原濕地ノ造林試驗

此林内ノ高原濕地ハ其面積凡千五百町ニシテ海面上五百四十米ヨリ六百六十五米ノ間ニ廣延シ古來樹木ヲ生セス水苔「カルナ」「エリカ」等の如キ野地ノ草類灌木ヲ生スルニ過キス千八百八十四年ヨリ此地ノ改良ニ著手シ先排水工事トシテ深キ溝渠ヲ通シ且面積五乃至七町ノ區劃ヲ成シテ各班ノ間ニ小溝渠ヲ設ケタリ造林ノ方法ハ先ツ鍬ヲ以テ左右ヨリ上層ノ泥炭質土壤ヲ中央ニ堆積シテ小丘狀トナシ其頂上ノ位置ニ粘土ヲ以テ根部ヲ包ミタル五年生ノ苗木ヲ植ユ

### (二) 溝渠ノ幅並小丘ノ幅ノ大小即單位面積ニ植栽ス可キ苗木ノ本數試驗

### (三) 肥料試驗(石灰、灰、客土、トーマス、燐肥等ヲ用ユ)

### (四) 松ノ生長試驗地(百〇三年生ノ松樹林ニシテ尙毎町)

### (五) 櫟及白樺ノ矮林ノ間伐試驗(間伐ト同時ニ山毛櫨唐檜及樅ノ下木植栽ヲ行ヘリ)

### (六) 外國樹種移植試驗

是等ノ試驗方法ハ皆其宜シキヲ得殊ニ數百年來荒蕪地トシテ放棄セル林地ノ造林ハ本試驗ノ結果益々成効ノ緒ニ着クニ至リタルハ大ニ稱賛ス可キ價值アルモノナリ

此地ヨリベルビエール町ニ至ル途中ニ著名ノ貯水地アリ其工事ハ實ニ壯大ナルモノニシテ高四十七「メートル」長二百三十五「メートル」石垣堤ヲ作りテ谿水ヲ阻止シ是ニヨリテ水面々積八十町水量一千二百萬立方「メートル」ヲ滞留シ之レヲ同地方ノ水力及飲用水ニ使用セリ

此夜急行列車ニテアルツセル市ニ到着ス

九月十三日午前九時ヨリ當時開會中ノ萬國博覽會場内會議室ニ於テ會議ヲ開ク

議事日程 種子ノ產地並遺傳性ニ關スル研究(前日ノ續キ)

右ニ就テマイアー教授報告ノ概要

グラフラーイトノ林業試驗地ニ於テ播種ノ實驗ニヨルトキハ

(一) フォインランド及那威等ニ於テ採集シタル種子ヨリ養成シタル松樹ハ立枯病ニ罹ルコト最モ少シ然レトモ其針葉短小ニシテ密生シ生長較緩慢ナリ

(二) 中央歐羅巴即和蘭比耳義西部露西亞及獨逸ニ於テ採集シタル種子ヨリ養成シタル苗木ハ此病害ニ罹リ易キモ其成長力旺盛ニシテ樹幹直長スルノ傾向アリ

(三) 南佛及チロール等ヨリ採集シタル種子ヨリ養成セル苗木ハ最モ此病害ニ罹リ易シ殊ニ獨逸ノ皆伐林地ニ栽植スル場合ニ於テ然リ又は等ノ苗木ハ假令此病害ヲ受ケサルモ完全ナル成育ヲ爲シ眞直ナル幹ヲ有スル林木タルコトハ其望ナキモノナリ是等三類ノ比較ニ於テ單ニ立枯病ノ關係ヨリ見ルトキハ北方產ノ種子ヲ採用スルヲ可トシ又第二類ノ各者ニ就テハ其間ニ格別ノ差等ヲ發見スルコト能ハス而シテ此病害ヲ除クノ方法ハ播種造林等ノ關係ヲ參酌スルヲ要ス第三類ノモノハ之レヲ獨逸ニ輸入スルハ最不利益ナリ

又ツエーテルバウエル氏ハ塊國マリアブルン林業試驗場ニ於テ施行ノ結果ヲ報告シテ曰ク

瑞典及東部露西亞ニ產シタル種子ヨリ生シタル幼樹ハ其生長他ノ地方產ノモノニ比シテ緩慢ナルコトヲ認メ又ガリチーエンニ於ケル試驗ノ成績ニヨルトキハ瑞典產ノ苗木及他地方產ノモノト雖モ之レヲ庇陰ニ於テ育成スルトキハ共ニ立枯病ニ罹ルモノナシ但シ後者ハ皆伐跡地ニ栽植スルトキハ此害ニ罹リ易シト

次ニ造林上ノ種子ニ關スル問題ニ就テ比耳義國森林監督長クラーエー氏ヨリ次ノ建議アリ

現今林業上種子ノ選擇種子ノ採集法並其性質ノ檢定及苗圃ノ監督等ハ益必要ヲ感スルヲ以テ萬國林業試驗場組合會議ハ左ノ決議ヲ爲サンコトヲ望ム

一、各林業試驗場ハ林木ノ種子(原種並其變種)ニ就テ其熟期收穫時季及母樹等カ種子ノ性質ニ如何ナル影響ヲ及ホサヤテ嚴格ニ調査スルコト

一、各國ニ於テ國立ノ種子精選所 (Samenkriegsanstalt) 及種子檢査所ヲ設立シ又私立ノ種子精選所並ニ苗圃ヲ檢査スルノ機關ヲ設ケルコト

本提議ノ趣意ハ各國委員ノ賛同ヲ得タルモ實行ノ方法ニ就テハ各其國ノ事情ヲ異ニスルヲ以テ決議ニ至ラスシテ止メリ  
議事日程第二森林ノ施肥ニ關スル研究

シユワツパツハ教授ノ大面積造林地ノ施肥ニ關スル試驗報告ノ概要

一、林地ニ肥料ヲ施スコトハ其場合ニヨリ國家經濟上甚タ必要ナリ即チ荒蕪地若ハ乾燥セル瘠地ニ於ケル造林ハ之レニヨリテ其効果ヲ直接ニ發現スルヲ以テナリ

二、合理的作業ノ行ハレタル良好ナル林地ニハ通例施肥スルノ必要ナシト雖モ只瘠地ニ於ケル更新地若ハ腐植土ノ過多ナル林地

ニシテ之レカ分解ヲ促カスノ必要アルトキハ特ニ其局部ニ限り施肥ノ効果顯著ナル場合アリ

三、中齡以上老齡ノ林木ニ對シテハ施肥ノ效果顯著ナラス即チ之レニヨリテ其林木ノ生長ヲ特ニ促進セシメ得ルコトヲ認ムルコト能ハス然レトモ林木ノ更新期並ニ幼齡ノ林木ニ對シテハ然ラズ

四、都市ノ下水若ハ人家ノ排棄水等ヲ林内ニ灌漑スルコトハ林業并國家經濟上甚タ有益ノ事ニシテ殊ニ是等ハ幼齡林ニ對シテハ其效果顯著ナリ

五、林地肥料ニ就テ最モ必要ナルコトハ窒素質ノ成分ハ假令少量ナルモ其價格低廉ニシテ其作用力長ク維持繼續スルコトナリ此目的ノ爲次ノ試驗ヲ行ヒタリ

a、元肥法、造林着手ノ前ニ當リテ豌豆ノ類ヲ培養シ或ハ植穴ノ土壤中ニ腐植土ノ類ヲ混シタルモノ

b、中肥法、植樹ト共ニ豌豆、苜蓿等ノ培養、藁、枯草等ノ撒布若ハ三葉松、五葉松又ハ偽あかしや、ばんのき類ノ混植

c、後肥法、植樹後ニ至リテ腐植土、硝酸アンモニヤ「硫酸アンモニヤ」又ハ智利硝石等ノ撒布

六、効力ノ迅速ナル窒素肥料ハ林木カ諸害ニ對シテ最モ危險ナル時期即チ植付後數年間ニ於テ其生長ヲ促進スルノ必要アル場合ニ最モ有益ナリ

次ニ比耳義國肥料試驗所長ベルストレート氏ヨリ林地ニ施肥スルノ試驗方法ヲ協定シテ各國林業試驗場ニ於テ之レヲ實施スルノ方案ニ就テ建議アリ即チ次ノ如シ

林木ニ肥料ヲ給スルコトハ近年各地方ニ於テ必要ヲ感スルモノアルニ至レリト雖モ從來林業ニ於テハ此等ノ調査ヲ欠クヲ以テ各國林業試驗場ノ共通問題トナシテ一定ノ方案ニヨリテ之レカ試驗ヲ爲スチ必要ト認ム而シテ其調査ノ要項ヲ擧ケレハ

一、樹木ノ生理并經濟的効果ノ兩方面ヨリノ調査

二、肥料ノ種類

三、各種肥料ノ有効成分ノ分量調査

四、肥料ノ種類及施用スヘキ分量

五、施肥ノ方法

六、試驗ノ方案

是等ノ試驗ハ現在ノ森林ト苗圃トニ於テ實行シ其一區域ノ面積ハ凡ソ二十五「アール」即チ凡ソ二反五畝ヲ標準ト爲ス可シ此建議案ハ評論ノ後次回マテノ宿題トナスコトニ決定セリ次ニ索遜國「フアーテル」氏ハ林地ノ養分ニ關スル研究ニ就テ左ノ報告ヲ爲セリ

一、林地ノ肥沃度ハ養分最少律ノ定則ニ基キ其最モ不良ナル性質ヲ以テ標準ト爲ス



二、農地ニ於テハ養分ノ最小量ナルモノハ通例窒素ニシテ次ハ磷酸ナリ然レトモ豆科植物ヲ植栽スル場合ニハ却テ磷酸ハ最小量トナル

三、農業ニ於テ石灰ヲ施用スルコトハ之レヲ直接ニ植物ノ養料ニ給スルノ意ニアラスシテ土壤中ニ於ケル微生物ノ發育ヲ促サシカ爲ナリ而シテ是等ノ微生物ハ植物ノ生育ニ作用ヲ與フルコト大ナリ

四、同一ノ林地ニ於テ施肥若ハ不施肥ノ兩處ニ於テ播種試驗ヲ行ヒ其結果ヲ觀察スルトキハ其林地ニ於ケル播種更新ノ適否ヲ判定スルコトヲ得ヘシ

五、松及唐檜ノ林地ニハ通例最少量ノ窒素ヲ含有シ又有機物ヲ含有セサル土壤ハ深キニ至ルニ從ヒ漸次窒素ヲ減少シ之レニ次キ磷酸モ又往々最少量ヲ存スルモノトス

六、松及唐檜林ニ石灰施用ノ場合ニハ其第一年目ニ多少ノ効果ヲ見ルコトヲ得

七、土壤中ニ存在スル少量ノ石灰分ハ長ク林木ノ生長ニ效果ヲ與フルコトナシ之レ石灰ハ水ノ爲ニ容易ニ溶解シ去ルモノナレハナリ

八、林木ノ生長或ハ形態ヲ變化スルノ原因ハ樹種ノ性質及其地ノ氣候ノミナラス亦土壤中ノ養分モ大ニ影響アリ

九、土壤中ニ磷酸ヲ欠乏スルトキハ松樹ノ針葉ハ赤色ニ變スル如ク亦養料ノ關係上松及唐檜ノ針葉ハ青白色ニ變スルコトアリ此現象ハ農用植物ニ於テハ磷酸欠乏ノ場合ニ於テ見ルコトヲ得是レ即チ「アントシアン」(Anthocyan)ト稱スル色素ノ存在ニ歸ス可キモノナラン何者此色素ハ酸類ニ對シテハ赤色ニ變シ鹽類ニ對シテハ青色ニ變スルモノナレハナリ

午後會員一同ニテ此市ノ近郊數哩ノ距離ニアルグレーネンダールノ國立樹木園ヲ巡視ス園ハ其面積十三町餘アリ距今十五年前ニ開設シタルモノニシテ就中外國產樹木ノ試驗地ニハ多數ノ本邦及米國產ノ樹木アリ(本邦產黑松、榎、くるみ、けやき等ハ能ク生育セリ)此他歐洲東部及各地方產ノモノヲ合セテ總計凡ソ三百種アリテ巴威里ノグラフラート及佛國ノレバリーノ外國樹木園ト相並テ斯學上甚タ有益ノモノナリ

(佛國ノレバリーニアル見本園ハ其起原最モ古ク現今ハ甚タ長大ナル樹木アリ其數モ亦多シ)

九月十四日早朝會員一同ニテ出發同國ノ西北傍ニアルカンピーント稱スル荒漠タル砂地ニ於ケル造林ヲ巡視ス此地ハ海面上十乃至百十「メートル」ノ間ニ横ハリ氣候ハ大陸的ニシテ甚タ荒ク冬ハ溫度零下二十五度ニ下リ夏ハ三十七度ニ上ル第三紀及第四紀層ノ砂地ヨリ成リ其面積凡ソ五十萬町歩アリ地味甚タ荒瘠ナリト雖モ現時已ニ十萬町ノ松林養成セラレタリ樹種ハ主ニ歐洲赤松ニシテ近年ニ至リテ之レニコルシカ產ラリしハ松及奥國ノ黑松等ヲ加ヘタリ林木ノ生長ハ甚タ不良ニシテ四十年生ニシテ一町歩ノ材積百五十乃至二百立方米ニ過キス

此處ニ於テ見タル諸種ノ試驗ハ左ノ如シ

一、八年生ノ歐洲赤松トリギだ松トノ互列混植林(前者ノ方生長佳ナリ)  
二、リギだ松、こるしか松及歐洲赤松トノ互列混植林

(歐洲赤松ハ獨逸、瑞典並同地方產ノ種子ヨリ養成シタルモノニシテ其第三者ハ母樹ノ幹眞直ナルモノト屈曲セルモノトナ區別セリト雖モ兩者共ニ幼木ノ生長ニハ格別ノ相違ヲ認メスシテ他ノ兩種ニ比シテ生長著シケ佳ナリ

三、造林ノ前ニ當リ豌豆類ノ培養、土壤ノ耕勸、施肥等ノ試験

是等ハ皆良好ノ成績ヲ示セリト雖モ之レカ選擇ハ其經費ノ多寡ニヨリテ定ム可キモノナリ

四、諸國產赤松ノ種子ト林木生長トノ關係調査

歐洲赤松種子ヲ諸國ヨリ蒐集シテ其苗木ヲ或區域内ニ栽植セルモノニシテ其成績ハ比耳義巴威里、普露西、リガ(露)等ノ產佳良ニシテ佛蘭西、蘇格蘭、東部、露西亞、瑞典及洪牙利產等ハ不良ナリ

### 五、林地肥料ノ試験

此他根株發掘器械及蒸汽力犁等ノ實驗アリテ後目下紅色ノ花ヲ滿開中ノえりかト稱スル雜草ノ枝葉ヲ以テ裝飾セル林内ノ假小屋中ニ於テ中食ノ饗應アリ(食事中ハ村内ノ若キ連ノ奏樂アリ)終リテ後馬車ニテ附近ノ停車場ニ至リアントワエルペンチ經テブルツセル市ニ歸ル

九月十五日午前ハ隨意萬國博覽會ヲ巡覽シ午後一時ヨリ亦場内ノ會議室ニ於テ會議ヲ開ク

議事日程 林業上ノ施肥ニ就テノ問題

クライー氏報告ノ概要

一、農業ノ肥料ニ供スル「トーマス」燐肥「カイニツト」石灰等ハ亦林業ノ肥料トシテ荒地又ハ瘠地ニ施用シテ最モ効能アリ

二、林木ニ對スル肥料ノ効果ニ就テハ現今學術上未タ確乎タル定説ナシト雖モ其効果ハ土壤樹種施肥法及肥料ノ性質及其分量ニ

ヨリテ各相異アルハ勿論ナリ

茲ニ注意ス可キハ林木ノ如キ農作物ニ比シテ較瘠地ニ生長シ得ルモノハ其同化作用ノ勢力比較的強クシテ又較深キ土壤ノ地ヲ要スルコトニシテ又林内ニ生スル腐植土ハ化學的肥料ノ効果ヲ變化スルコトアリト稱スルヲ得可シ是故ニ林木ニ對スル施肥ノ効果ヲ試験スルニハ之レカ適度ノ分量並施用法等ヲ或一定ノ地區ニ就テ爲スヲ要ス

三、此理由ニヨリテ吾輩ハ比耳義國ニ於ケル本試験ニ鑑ミ次ノ詰論ヲ爲スコトヲ得

(a)石灰ハ比耳義國潤葉樹林ニ對シテ甚タ有効ナリ殊ニ松樹林ノ伐採跡地ニ他ノ針葉樹ヲ造林スル場合又ハ野地ノ如キ生腐植土ノ多キ地ノ造林ニ於テモ然リ此他「ヘルゾーゲン」林ノ試験ニ於テハ泥炭ヨリ成レル濕地ニ唐檜ヲ造林スル場合ニモ大ニ有

効ナルヲ證明セリ

(b) トーマス燐肥ハ石灰分ノ50%ヲ含ム。モノナレハ石灰養分ノ關係ニ於テハ固ヨリ石灰ニ及ハサルモ此肥料ハ植物ノ生育上最も有力ナル燐酸ヲ含有スルヲ以テ此養分ノ缺乏セル地方ニ於テハ其効顯著ナリ然レトモ此肥料ハ乾燥又ハ水分ヲ透過シ易キ又ハ殊ニ酸性ヲ含マサル土壤ニハ其効能比較的微弱ナリ

(c) カイニツト及其他ノ可里質肥料ハカンペーン地方ノ如キ乾燥並水分ヲ透過シ易キ砂土質土壤ニハ林木種ノ針闊葉ヲ問ハス其効果著明ナリ

(d) 窒素質肥料ハ高價ナル爲之レカ調査ヲ爲セルモノ少シト雖モ苗圃ハ勿論林地ニ於テモ比較的安價ナル肥料ヲ求メテ之レヲ施コスコト必要ニシテ殊ニ砂土質ノ林地ニ潤葉樹林ヲ仕立テンントスル場合ニ於テ然リ

四 施肥ノ場合ニハ諸般ノ關係ヲ參酌シ又必要アラハ土壤ヲ耕勸シテ肥料ヲシテ能ク土壤中ニ落付カシメ又平等ニ分配セシムルコト必要ナリ

チツセル氏(和蘭)曰ク同國ノ荒蕪地造林ニ當リ豌豆類ヲ培養シテ好結果ヲ得タリ即チ之レカ爲メ土壤中ノ窒素ヲ増加シ又其莖葉等ハ砂土ノ飛散ヲ防クニ大ニ効能アリシト

シエーンベルク氏(和蘭)曰ク林業ニ於テモ亦農業ニ於ケルカ如ク施肥ノ方法ヲ研究スルノ必要アリ又化學的性質ト共ニ理學的性質ノ研究ヲ忘却セサルヲ要スト

シエワツパツハ氏曰ク此ノ如キ試驗ハ其實驗數ヲ多數ニスベシト  
ヘツセルマン氏曰ク土壤ノ研究ニハ大ニ植物生理的性質ノ研究ヲ伴フ可シト

フアーテル氏曰ク現在ノ分析法ハ未タ不完全ニシテ肥料ノ經濟的効果ヲ充分ニ察知スルコトヲ得ズト  
エングラール氏曰ク瑞西ニ於テハ現今土壤黴菌ノ研究ニ從事セリト雖モ未タ満足ナル結果ヲ得ズト

此問題ニ就テハ尙調査ス可キコトアルヲ認メクライエー氏ノ建議ニ基キ第七回ノ組合會議ノ宿題トシテ繼續スルコトニ決定セリ

次ニロート氏(匈牙利)ハ林木ノ窒素攝取作用ニ關スル研究ニ就テ報告セリ其概要左ノ如シ

林木カ其體ノ表面即表皮上ニ生スル毛ヨリ窒素ヲ攝取スルト稱スルザヤミエソン氏ノ說ハ將來尙充分ニ研究スルノ價値アルモノニシテ是ト同時ニ亦其生理的性質ヲモ調査セサル可カラス是等ニ關シテ先ツ必要ナルハ芽、花、葉、小枝、幹、果實及上昇并下降スル樹液等ノ分析ヲ爲スニアリ云々

モロソツフ(露西亞)氏ハ井水ノ水面ト森林ノ關係ニ就テ自己ノ試驗ヲ説明セリ其要ニ曰ク

千九百一一年來チボーニ於ケル實驗ニヨルトキハ同一ノ狀態ヲ有スル二個處ノ試驗地ニ於テ最初森林ノ存在セル間ハ其井水ノ水面同一高ニアリシト雖モ其森林ヲ伐採後ハ其水面漸次ニ上昇シテ二ヶ年後ニ至リ六十一種ニ達シタルヲ見タリ是レ伐採當

年ハ其林木ノ根株ハ猶生活力ヲ有シ萌蘖ヲ生シタルカ爲急ニ水面ノ上昂ヲ惹起セサリシモ爾後は等ヲ除去セルニ當リ前記ノ如キ著シキ上昂ヲ爲スニ至リタルモノナル可シト

午後四時閉會シ會員一同十時發ノ汽車ニテセント・フーベルトニ向ヒ十一時同處ニ到着セリ此地ハ三千五百ノ人口ヲ有スル高平原ノ小市ニシテ千四百町餘ノ公有林ヲ有セリ狩獵地ニ適セルヲ以テ此森林ノ狩獵權ハ毎年一萬二千法ヲ以テ貸與セリ九月十六日馬車ニテ出發フレイア公有林内ノ試驗地ヲ巡視ス其主ナルモノヲ擧クレハ

一、山毛櫸林百六十年生ニシテ枝下一〇乃至一四米平均直徑〇四一釐圓面積二六六三平方米總材積二百三十七立方米本數(二ヘクタール)百九十四本アルモノ

二、同百四十年生平均直徑〇四三釐圓面積二七五五平方米總材積二七〇九立方米本數百八十二本(二ヘクタール)ノモノ

三、五十七年生唐檜林内ニ白樅及のるごまん樅ヲ栽植シ尙其下樹トシテ山毛櫸ヲ植付ケタル試驗地

四、泥炭地上ノ唐檜林ノ收穫試驗地(林齡五十七年平均高二三米平均直徑〇三六米總材積五九四立方米每年生長量一六・七〇立方米

一「ヘクタール」ノ立木本數三三九本

五、濕地上ニ成立セル唐檜林ノ間伐試驗地千九百六年ニ間伐試驗ヲ開始シ千九百九年ノ調査ハ次ノ如シ

比較林地(間伐セズ)	本數	平均直徑	平均高	總材積	連年生長量
適度ノ間伐後	1,211	0.21m	15m	412m	1845m
強度ノ間伐後	838	0.24m	15m	427m	1822m
	438	0.27m	15m	250m	1197m

六、山毛櫸ノ收穫試驗地(林齡八十七年本數三百二十八平均高二十六米平均直徑〇三七米總材積四〇六立方米連年生長量五・〇六立方米平均高十六米)

七、濕地ニ於ケル唐檜林ノ收穫試驗地(林齡三十七年本數九百七十六平均高十四米平均直徑〇二一米總材積三四四・五一立方米連年生長一三・二一立方米アリ)

八、唐檜林ノ間伐度合試驗ノ千九百九年ニ開始セルモノ

九、山毛櫸林ノ收穫試驗地(林齡百二十二年本數山毛櫸百五十四榎樹四十八榎六榆二平均高一八米平均直徑〇三八・〇四三・〇三八・〇六〇總材積三八一立方米連年生長量六・一九立方米)

以上ノ各試驗地ヲ巡視シテ此夜アリユツセル市ニ歸泊ス

九月十七日會員一同馬車ニテ出發市ノ郊外ニアリ「ソアーネ」林ヲ巡視ス此林ハ國有ニ屬シ其全面積四千五百餘町其大部分ハ山毛櫸林ニシテ其面積三千七百餘町アリ而シテ其一局部ニ老林ノ見事ナルモノアリ樹幹眞直恰モ針葉樹林ノ加ク其全長四〇米枝下

長三〇米、周圍三九米、年齡二百九十年ナリ、概シテ此林地ニ於テハ山毛櫸ノ生長甚タ佳良ニシテ連年生長一七立方米以上アリ、且其  
材ハ一立方米六〇法ヲ以テ賣却スルコトヲ得ルトイフ

此林内ニ於ケル試驗地ハ次ノ如シ

一、山毛櫸林ニ最モ有利ナル間伐試驗

二、下木植栽、林地ノ耕耨及施肥等カ、林木ノ生長ニ及ボス影響試驗

三、山毛櫸ノ收穫試驗地

四、諸種ノ間伐法カ、山毛櫸ノ幼林ニ及ボス影響試驗

五、山毛櫸及櫸ノ混淆林ノ材積生長試驗

六、外國樹種ノ造林試驗(本邦產落葉松ノ生長ハ甚タ佳ナリ)

七、山毛櫸ノ天然更新地ニ和蘭耨ノ使用之レヲ使用シテ土壤ノ表面ヲ攪起セル林地ハ種子ノ發芽甚タ佳良ニシテ其效果ノ顯著ナルヲ認メタリ)

ルヲ認メタリ)

九月十八日午前九時ヨリ萬國博覽會々場内ノ會議室ニ於テ會議ヲ開クビュラー氏前同ノ會議ニ決定セル林學圖書目錄編纂法  
起草委員長トシテ左ノ報告ヲ爲セリ

一、林學圖書目錄ヲ別テ二種トナシ一ハ既往ノ出版ニ係ルモノ即チ千七百年ヨリ千九百十年ニ至ルモノヲ一括シテ一卷ノ總目錄

トナシ將來即チ千九百十一年一月以後出版ノモノハ手札目錄(Notiz Katalog)ト爲ス

二、之レカ發行ニ關シ手札目錄ノ分ハ千九百十年七月マテニ已ニ八十部ノ豫約申込アリ又總目錄ノ出版ニ對シテハ已ニ一萬六千

馬克ノ寄附金ヲ得タリ  
(獨逸國ノ分 七、二九〇馬克  
其他諸國ノ分 三、〇九六馬克)

三、瑞西國ニ於テ之レカ發行ヲ擔當シ同國ザユールツヒ市ニ於ケル萬國圖書會議(Concilium bibliographicum)ト連絡ヲ保チ又此事業ノ

遂行ニ對シ同國ハ前記兩目錄各三部宛ノ寄贈ヲ受クルモノトス

四、總目錄ノ發行ハ將來毎年發行スル手札目錄ト同一ノ方法ニヨリ其體裁分類及國語等ハ總テ同一トナス手札目錄ノ方ハ直ニ發

行ノ手續ヲ爲シ總目錄ハ將來五年間ニ於テ印刷ヲ終リ其書名ヲ萬國林學圖書目錄(Bibliographie der forstlichen Literatur aller Länder

von 1700-1910)ト稱ス

申込ノ寄附金ハ千九百十年十一月一日ヨリ委員長宛ニ送達セシメ又發行處ニ於テハ材料ノ蒐集ニ着手スルモノトス

五、毎年發行ノ圖書ハ手札目錄ニ印刷シテ各豫約者ニハ毎年四回宛八百八十枚迄ハ無償ニテ送達スルモノトス

目錄ニ記揭スル圖書ノ名稱ハ其出版ノ國語ヲ用キ又英、獨、佛、伊ノ國語ニテ著述セルモノニハ著者ノ請求アル場合ニハ佛語若ハ  
獨逸語ノ翻譯ヲ附スルコトアル可シ又其圖書内容ノ摘要ヲ或國語ニテ附記セルモノニハ之レヲ記入スルコトアル可シ

其圖書ノ名稱ニヨリ其内容ヲ察知スルコト能ハサルモノニハ其内容ノ標題ヲ記載スルコトアル可シ  
本日録ニハ尙自然科学法律及國家學經濟學土木及測量學等ニシテ林學ニ關係アルモノヲ掲記ス

一、林學科中各分科ノ分類ハ適宜ノ標準ニ據ルモノトス  
一、各豫約者ニハ手札目錄ノ應用并配列ノ方法書ヲ配布ス

右ニ就キシーフエルトプアーテル、ベツク及オツベルマン等ノ諸氏ヨリ諸種ノ意見アリシモ結局右委員ノ報告ヲ是認セリ而シテ  
ペーメレー氏ノ發議ニヨリ前回ヨリノ委員ハ尙ホ之レヲ繼續シ更ニ又ベツク氏ヲ加フルコトニ決定セリ

エングララー氏ハ若シ他國ノ林業試驗場ニ於テモ之レニ助力セラル、アラハ瑞西國林業試驗場ハ喜ンテ右圖書目錄ノ發行ノ任ニ  
當ルコトヲ承諾シ尙ホ千九百十一年ニ發行ス可キ手札目錄ハ經費ノ都合上千九百十二年ニ延期スルノ承認ヲ求メ之レニ決定セ  
リ次ニヘツセルマン氏ハ次ノ建議案ヲ提出セリ

本組合ニ加入スル林業試驗場ノ報告ニシテ獨佛若クハ英語ヲ以テ出版セサルモノハ其報告ノ摘要ヲ右三國語ノ何レニカ翻譯  
シ又其圖版ノ説明モ同様ニスルヲ要ス

右建議案ハ多數ノ決議トナレリ

次ニ第七回萬國林業試驗場組合會議ハ千九百十四年洪牙利國ブダペストニ於テ開會スルコトニ決シ同國試驗場代表者グダシ  
氏ハ之レニ對シ歡迎ノ意ヲ述ヘタリ

次ニブリュッセル國立植物園長ガンマー氏ハ北米產偽樺ノ生長材質等ニ就テ多年間ノ試驗成績ヲ説明シ此樹種ハ從來此國ニ輸  
入セラレタルモノ、中最モ優等ニシテ且歐洲原產ノ唐檜ニ勝ルモノナルヲ稱シ又同氏及ヒザル伯ノ合著ニ成レル比耳義國ニ於  
ケル外國樹種ト稱スル大部ノ書物ヲ各會員ニ寄贈セリ

次ニ小官ハ單簡ニ日本ニ於ケル林業試驗ノ概況ヲ説明シ且ツ本局ヨリ廻送セル英文日本ノ森林ノ林業ト稱スル小冊ヲ各國ノ委  
員ニ配布シタリシニ是レ右ノ人々ニハ新奇ノモノナレハ皆大ニ感謝セリ

次ニビュラー氏ハ千九百十六年「スツツガルト」ニ開設セル腐植土展覽會ノ成績並其成立ノ研究ニ就テ説明セリ其概要ハ  
一、林木ノ針葉及凋葉ハ落下後、一年ノ間ニハ未タ腐朽スルモノ甚タ少ナシト雖モ二年ノ終ニ至ルトキハ殆シト腐朽シ始メ是レヨ  
リ其腐朽度速ニ進捗シ落葉ノ種類ニヨリテ格別ノ變化ナシ(但シ第一年ノ終ニ於テハ針葉ハ凋葉ニ比シテ腐朽スルコト較少ナ  
リ)

二、海面上ノ位置雨量溫度方向等ノ影響ハ此回ノ試驗ニ於テ甚タ微小ナルヲ認メタリト雖モ土壤ノ性質ハ大ニ關係アリ即チ砂土  
ノ處ニ於テハ其腐朽最モ遅キヲ見タリ

三、林滓ノ下ニアル土壤ハ多少暗褐色ヲ帶ヒ其色ハ土壤ノ内部ニ進ムニ從ヒ漸次減却ス是レ腐植土ノ爲ニ着色セラレタルモノナ

リ而シテ其腐植土ト稱スルモノハ林木ノ枝葉カ腐朽セル後ニ殘留セル固形物カ土壤ト混合シタルモノニシテ之レカ尙一層分解スルトキハ炭酸瓦斯「アンモニア」及水ト成ル從來此腐植土中ニハ諸種ノ「ヒューミツク」酸ヲ含有セリト稱スレトモ輒近「パウマン」氏ノ研究ハ之レヲ非認セリ云々

次ニ比耳義國「カングロ」農學校教授「ボスキン」氏ハ唐檜ノ單純林ノ作業ヲ變更スルノ意見ニ就テ報告セリ其概要ニ曰ク

一、唐檜ノ人工植栽ニ依ル皆伐單純林作業ハ可成的之レヲ避クルヲ要ス

二、唐檜單純林皆伐ノ跡地ニハ直ニ同様ノ作業ヲ施コス可カラス若シ之レヲ欲スル場合ニハ第一次ニ山毛櫸又ハ樅林ヲ作り第二次ニ唐檜林ニ變更スルヲ可トス

三、比較的老樹ノ庇陰下ニ於テ唐檜ノ人工更新ヲ行フコトハ唐檜ノ純林ヲシテ混淆林ノ形狀ニ成立セシムル所以ニシテ甚タ適當ナル方法ナリト信ス

四、尙第三項ノ方法ヲ種々ノ場合ニ應用センカ爲適法ナル試驗ヲ爲サンコトヲ希望セリ

次ニカイリエー氏ハ山毛櫸ト他ノ有用調葉樹即チ樺、秦皮、槭又ハ榆等トノ混淆林ハ森林ノ利益ヲ多ク増加スルコトヲ説明シ其混淆歩合及造林ノ方法等ハ將來試驗ノ上之レヲ決定スルノ要アルコトヲ主張セリ

又和蘭國植物學者「シエルンベツク」氏ハ森林樹木ノ生活狀態ハ林業ノ基礎タルコトヲ論シ植物生理學上ノ實驗ヲ多數ノ圖表及同氏ノ發明セル實驗器械等ニヨリテ説明セリ

最後ニ「シユワツパツ」氏ハ會員一同ヲ代表シテ此會ノ爲ニ晝夜盡力セラレタル會長並ニ其他ノ委員ニ感謝ノ辭ヲ述ヘ茲ニ正式ノ會議ヲ終了セリ

九月十九日昨日ヲ以テ正式ノ會議ヲ決了シタルヲ以テ此日ハ已ニ二三ノ委員ハ歸國セルモ其多數ハ尙當地ニ滞在シテ博覽會ヲ見物シ又隨意近郊ノ森林視察旅行ヲ爲シタルモノアリ

此夜比耳義國林業試驗場ノ主催ニテ各國ノ委員ヲ招待シテ晚餐會ヲ開ク同國ノ内閣總理大臣及林業ニ關係アル朝野知名ノ士來會シテ甚タ盛會ナリ席上奧國「ベームレー」氏ハ歐洲大陸諸國ヲ代表シテ本會ニ對スル同國官民ノ好意ヲ謝シ小官モ亦其他ノ諸國ヲ代表シテ同様ノ謝辭ヲ述ヘ次ニ本邦ノ天然并林業ノ現況又交通及旅行ニ關シテ必要ナル時日及經費等ヲ説明シ我邦ノ天然ハ「International」ナルヲ以テ現今ノ如ク萬國的二林業ヲ研究スルノ時代トナリテハ歐洲ノ林學者ハ是非トモ一度本邦ヲ視察スルノ價値アル可シトノ結論ヲ爲セリ

次ニ洪牙利國「ラダシユ」氏ハ次回ノ本會主催國ノ代表者トシテ各國委員ヲ歡迎スルノ辭ヲ述ヘ此他比耳義ノ代表者及知名ノ諸氏ノ乾杯演說アリテ閉會セリ